

2018年3月期決算説明会

2018年6月14日



三光産業株式会社

SANKO SANGYO CO.,LTD.

(証券コード：7922)



目次

会社概要	p.3
前期（2018年3月期）決算概況	p.7
今後の事業展開	p.13
中期経営計画	p.16

会社概要



主な製品

タッチパネル関連製品に成長ドライバーをシフト

シール・ラベル印刷関係

ロゴパッチ



インジケータパネル



定格ラベル



性能表示ラベル



電池シール



タッチパネル関連製品

※加飾トップパネルの「印刷段差吸収技術」において、特許を取得

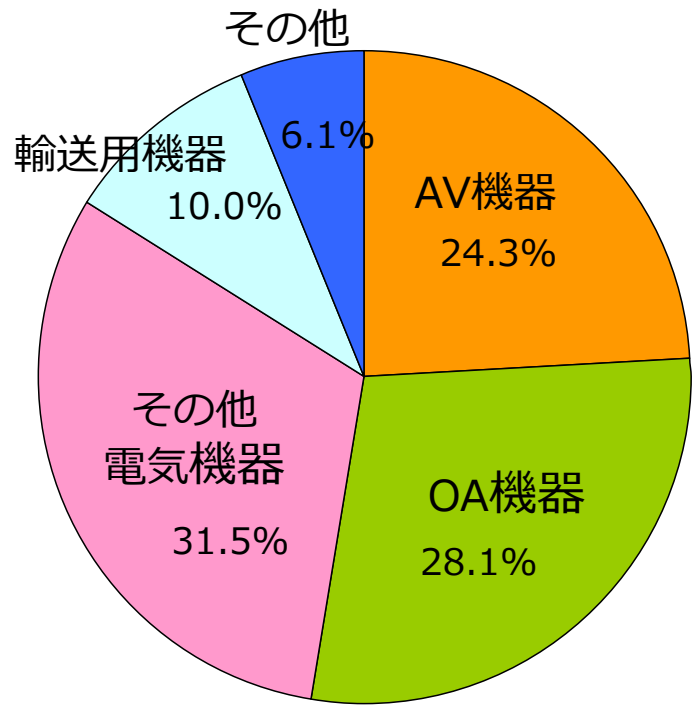




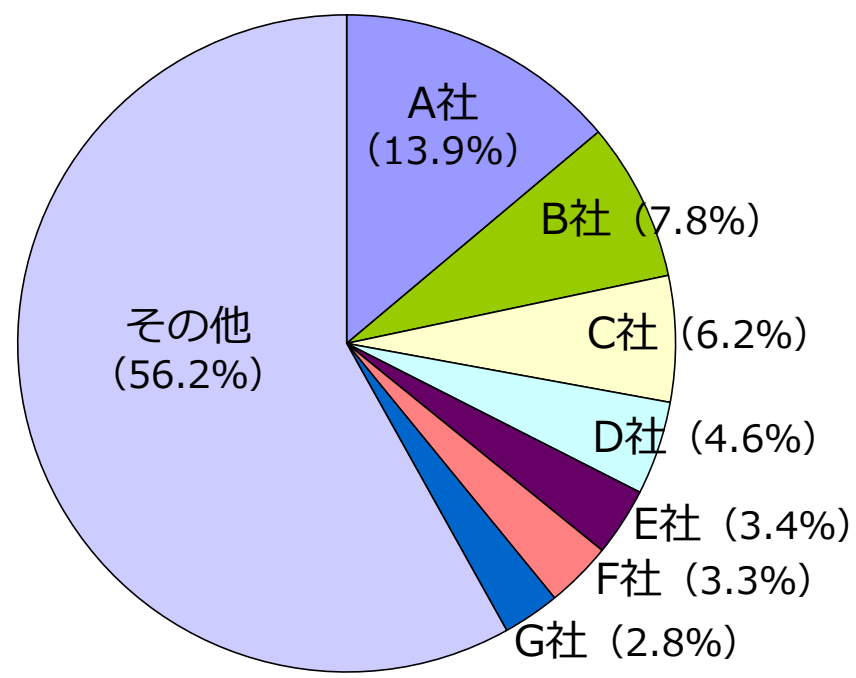
売上構成

2018/03期

業種別売上構成（連結）



顧客別売上構成（単独）



イクヨ シャープ ジャパンディスプレイ 翔栄 ソニー
パナソニック 富士ゼロックス ホシデンエフ・ディ 等
約1000社（敬称略）（五十音順）



事業拠点

国内拠点

長野工場
〈長野県 佐久市〉

川越工場
〈埼玉県 川崎市〉

本社
〈東京都 渋谷区〉

名古屋営業所
〈愛知県 名古屋市〉

大阪支店・大阪工場
〈大阪府 東大阪市〉

海外拠点

燦光電子 (深圳) 有限公司
蘇州分公司 〈中国 蘇州〉

燦光電子 (深圳) 有限公司
〈中国 深圳〉

光華産業有限公司
台灣辦事處 〈台湾〉

光華産業有限公司
〈香港〉

SANKO SANGYO (BANGKOK)
CO.,LTD. 〈タイ〉

SANKO SANGYO (MALAYSIA)
SDN.BHD. 〈マレーシア〉

SANKO SANGYO
(ベトナム) CO.,LTD.

前期（2018年3月期）決算概況



決算概要

単位：百万円 %

	17/03期		18/03期		
	金額	構成比	金額	伸長率	構成比
売上高	9,930	100.0	12,660	1.0	100.0
A V 機器	3,162	31.9	3,081	▲2.6	24.3
O A 機器	2,245	22.6	3,557	58.4	28.1
その他電気機器関連	2,405	24.2	3,988	65.8	31.5
輸送用機器関連	1,407	14.2	1,263	▲10.2	10.0
その他	708	7.1	769	8.6	6.1
売上総利益	1,737	17.5	2,091	20.4	16.5
営業利益	▲129	▲1.3	187	－	1.5
経常利益	▲74	▲0.7	245	－	1.9
親会社株主に帰属する 当期純利益	204	2.1	252	23.5	2.0



前期決算のトピックス

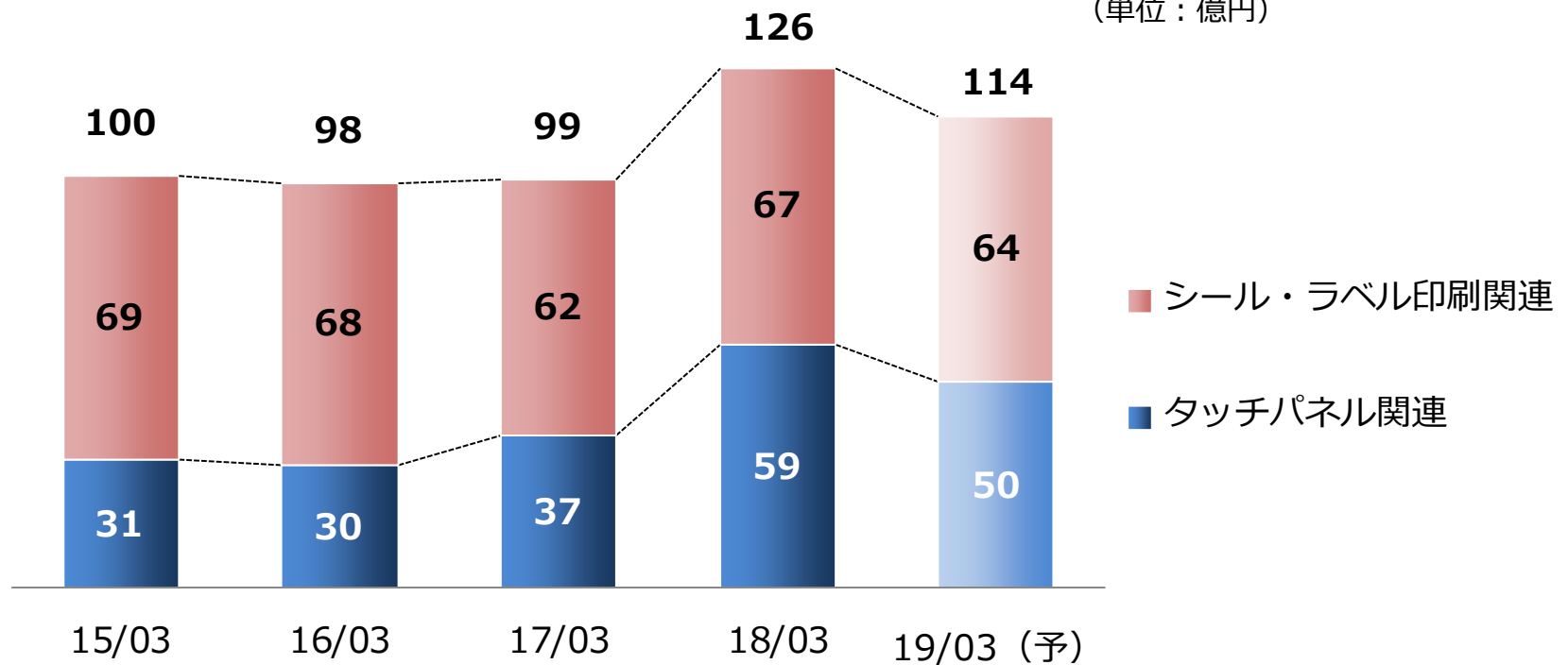
18/03実績 (増収・増益)	売上高	● 前期比大幅増収 ● T P 関連製品に関しては中国においてスマートフォン、ゲーム機関連の大型案件により大幅に売上増
	利益	● 粗利率は悪化するも、増収効果により販管費の増加を吸収し営業利益計上 ● 経常利益については受取利息、受取配当金等により好転 ● 前期の固定資産売却益は解消するも、当期純利益2億5,200万円と増益



既存・新規事業の売上高

シール・ラベル印刷関連製品（既存事業）と タッチパネル関連製品（新規事業）の売上高推移

（単位：億円）





セグメント別収益

日本

(単位：百万円)

	17/03	18/03
売上高	7,147	7,799
セグメント利益	▲35	29

- 前期（2018年3月期）は増収
- 歩留率の改善及び内製化による効率化により増益

中国

	17/03	18/03
売上高	2,287	4,183
セグメント利益	▲41	156

- タッチパネル関連製品を中心した受注増により、売上大幅増
- 生産効率の向上、経費削減により、黒字転化

アセアン

	17/03	18/03
売上高	494	677
セグメント利益	▲64	▲7

- マレーシア現法は業績改善が進み営業利益を計上するも、バンコク現法の赤字によりアセアンセグメントは赤字
- 前期（2018年3月期）は、マレーシア現法の黒字拡大、バンコクの本格稼働により赤字を大幅に圧縮

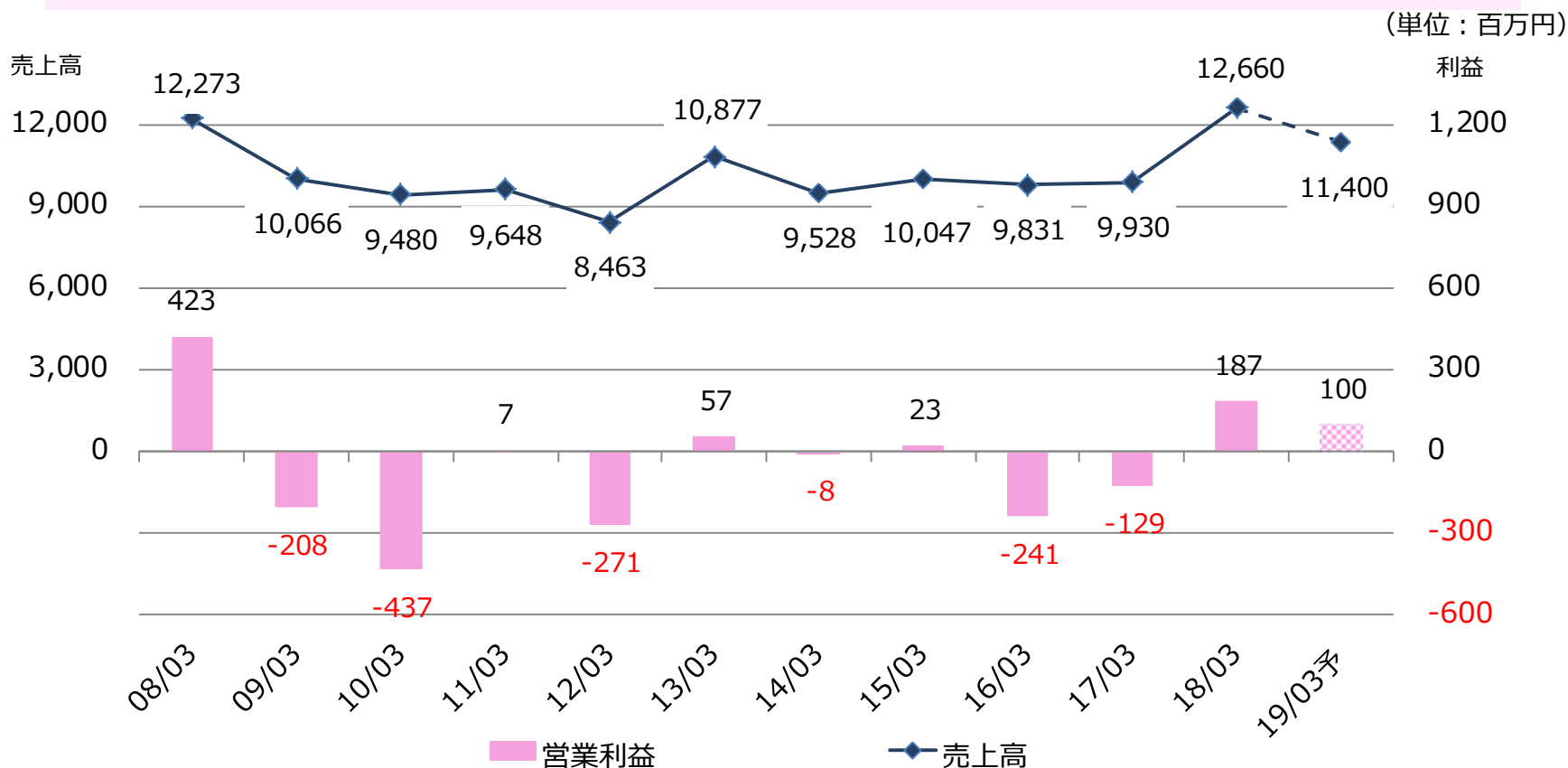
※ 上記売上高はセグメント間の内部売上又は振替高を含めておりません



業績推移

前期タッチパネル関連製品等の受注増、特に中国等海外子会社の業績回復により、黒字転換し、営業利益を確保。

今期、国内はTPを中心に回復基調で推移すると予想されるが、中国は受注に不安定な要素があるため、売上、営業利益は前期より減少見込。



今後の事業展開



事業環境

タッチパネル関連事業

主に日本・中国子会社で展開

- 2018年度のT P市場は引き続きスマホ向け需要を中心に成長を続けるも、T P市場全体としては、成長を続けるも競争が激化。
- スマートフォン市場
 - ローエンド・モデル⇒中国メーカー等の供給業者が多すぎるレッド・オーシャン市場⇒価格競争の激化
 - ハイエンド・モデル⇒曲面成型及び加飾性等の高付加価値製品が伸長見込み⇒高い技術力が必要
- カメラ市場 ⇒デジカメからスマホへの代替により需要減少傾向
- 車載市場 ⇒今後の成長分野だが、厳しい製品品質基準

シール・ラベル関連事業

日本・アセアン・中国子会社で展開

- 国内家電メーカーの海外生産移管の動きは変わらず、シール・ラベルの国内需要は緩やかだが減少が続いている。
- 中国市場においては、ローカルとの価格競争等、受注環境は非常に厳しい状態が続いている。
- アセアン地域は、家電、輸送機器関連メーカーの進出によりシール・ラベル需要に期待。



経営課題

タッチパネル関連事業

主に日本・中国子会社で展開

- 受注の拡大と受注の安定化⇒
中心の1つであるスマホ市場は製品ライフサイクルも短く、受注が不安定なためこれに代わる安定受注品目の確保が課題。
- 収益性の改善⇒
案件毎に異なる高度な技術・技能が必要とされ、歩留まりの改善等製造面の強化も課題。
- 車載用TP、産業用TP等、今後の成長分野への技術対応⇒
人材の確保と外注先の発掘

シール・ラベル関連事業

日本・アセアン・中国子会社で展開

- 国内事業においては、固定費削減のため生産体制の再編を実施し、シール3工場を長野工場に集約。今後は受注の安定的確保を目指す。
- 中国においては、価格競争等により収益性の改善に課題。
- 今後重要性を増すアセアン市場での営業力強化と生産体制の改善が課題。
- 今後の新たな事業の柱を構築

中期経営計画

(2019年3月期～2021年3月期)

1 – 2 中期経営目標



黒字体質への転換

- ・ 前期営業利益1.8億円計上
- ・ 恒常的に連結純利益を計上できる会社に戻す
- ・ 中期経営計画最終年度以降連結営業利益 2 億円継続

タッチパネル事業の 業界内地位の安定化

- ・ 前期よりタッチパネル事業の採算性が上がっている
- ・ 品質管理を徹底し、業界のサプライヤーとして確固たる地位を築く

シール・ラベル事業の 収益性の改善

- ・ 東京圏のシール・ラベル事業の収益性を改善する
- ・ アセアン地区全体でグループ貢献利益を上げる

1 - 3 経営目標達成のために



重要施策

タッチパネル事業の 業界内地位の安定化

- ・ 品質管理の徹底
- ・ 適正見積の実施
- ・ 継続した技術進歩への対応と高度な技術力のある企業との連携強化

シール・ラベル事業の 新たな柱の構築

- ・ 電機機器業界以外への進出
- ・ グループ内受注の拡大により工場稼働率を上げる
- ・ 設備投資による生産性の向上

基幹システムの リプレイス

- ・ 老朽化したシステムを2020年3月までに更新して、国内事業所の事務処理の効率化をはかる
- ・ タイムリーな計数の把握を通じて経営管理レベルを上げる

1 – 3 経営目標達成のために



重要施策

アセアン地域の業績の安定

- ・ マレーシアの黒字を維持するための工場オペレーションの品質高度化
- ・ バンコク、ベトナム拠点の早期黒字化のための受注増加

深圳工場の業績の安定

- ・ 工程管理の改善
- ・ 適正人員への調整

2 - 1 数値目標



	18/03期	19/03期見込	21/03期目標
売上高	12,660 百万円	11,400 百万円	12,800 百万円
営業利益	187 百万円	100 百万円	240 百万円
営業利益率	1.5 %	0.8%	1.9 %

2 - 1 数値目標



- 2018年3月期はタッチパネル事業にて好調な業績となったが、ライフ期間の短いビジネスによる影響が大きかった
- 2019年3月期からの3カ年を、中期計画最終年度である2021年3月期以降安定して営業利益200百万円を計上するための基礎を作る期間として位置付ける
- 2021年3月期に営業利益200百万円超の確保を目指す

2 - 2 投資



時期確定設備投資（今中計期間に実施予定）

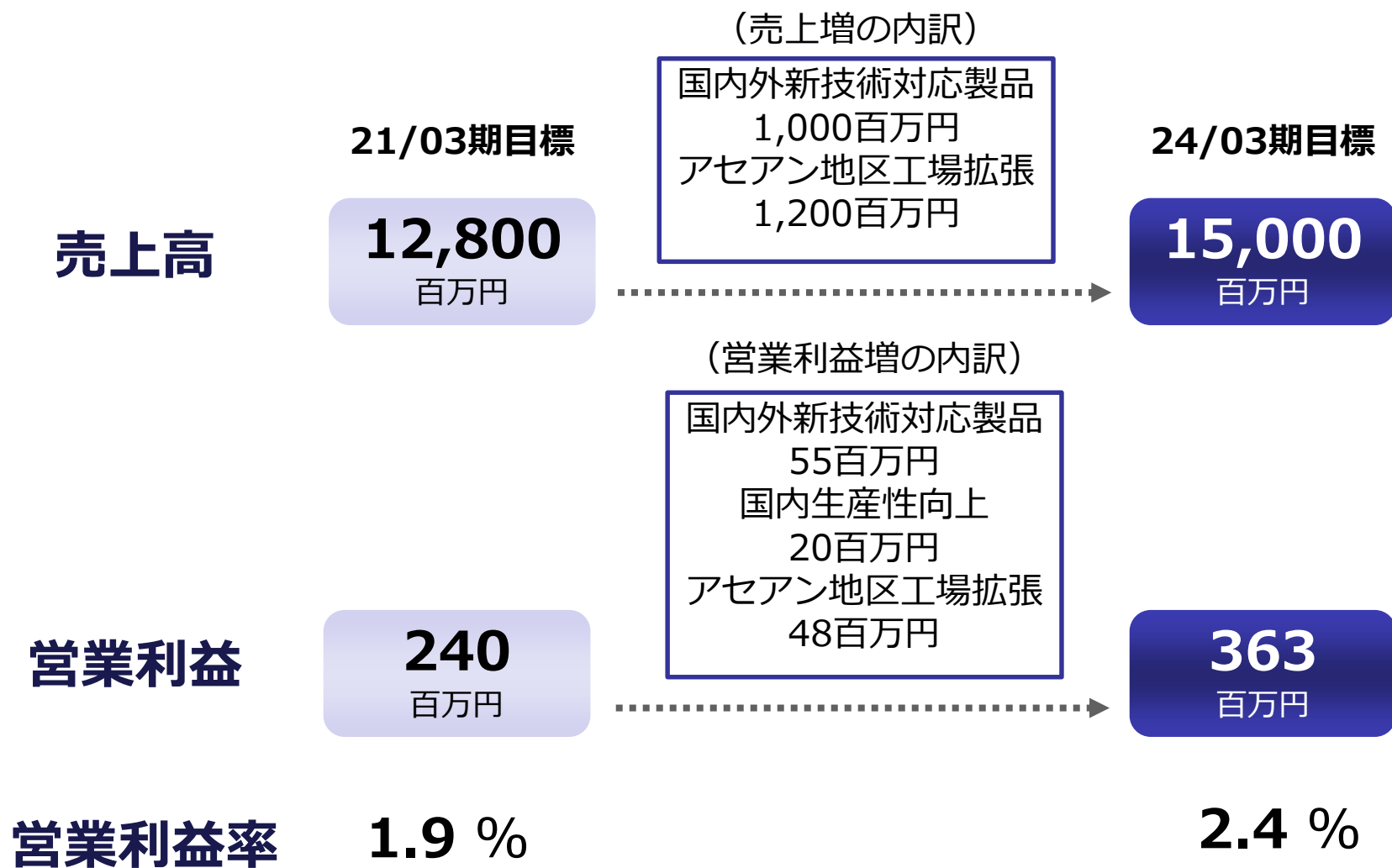
拠点		金額見込	主要項目
連結合計	百万円	1,000	

時期未確定設備投資（次期中計期間までに実施予定）

拠点		金額見込	主要項目
連結合計	百万円	1,000～2,000	国内事業関連新技術の開発資金 アセアンセグメントにおける工場新設等 拡張設備投資

2021年3月期の目標達成のために最適な設備投資を行う

3 - 1 長期数値目標





株主還元・資本政策について

配当について

財政状態、投資計画等を総合的に勘案して、安定配当を基本といたします。

⇒当面7円配を最低限として、目標利益を上回る場合は
配当性向を25～30%程度を目安に配当実施いたします。

17/03期実績

7.0 円

18/03見込

10.0 円

19/03期予想

7.0 円



本資料に掲載されている三光産業株式会社の現在の計画、見通し、戦略、確信等のうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。

これらの情報は、現在入手可能な情報から三光産業株式会社の経営者の判断に基づいて作成されております。

実際の業績は、さまざまな重要な要素により、業績見通しとは大きく異なる結果となりうるため、業績見通しのみに全面的に依拠することは控えるようお願い致します。

また、本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。

I R お問い合わせ

取締役常務執行役員 経理担当

高橋 光弘

T E L : 03-3403-8134

E-mail : m-takahashi@sankosangyo.co.jp

補足資料

2-2 セグメント別数値目標



セグメント別売上

セグメント別売上		2018年3月期 実績	2019年3月期 見込み	2020年3月期 計画	2021年3月期 計画	対2018年3月期 実績
連結合計	百万円	12,660	11,400	12,000	12,800	140
日本	百万円	8,239	9,600	9,891	10,654	2,415
中国	百万円	4,478	2,644	2,616	2,694	-1,784
アセアン	百万円	683	885	1,161	1,219	536
全社・消去	百万円	-739	-1,729	-1,668	-1,767	-1,028

- 2018年3月期の売上高の水準をベースにする
- グローバル営業部門の売上を着実に伸ばす
- アセアンはタイ・ベトナムを伸長し、今後の主要収益セグメントへ

2 - 2 セグメント別数値目標



セグメント別営業利益

セグメント別営業利益		2018年3月期 実績	2019年3月期 見込み	2020年3月期 計画	2021年3月期 計画	対2018年3月期 実績
連結合計	百万円	187	100	142	240	53
日本	百万円	29	38	51	140	111
中国	百万円	156	54	46	50	-106
アセアン	百万円	-7	8	45	50	57
全社・消去	百万円	9	-	-	-	-9

- 2018年3月期の利益水準をベースにする
- アセアンを利益セグメントに成長させる

2 - 3 投資



時期確定設備投資

拠点		金額見込	主要項目
連結合計	百万円	1,000	
本社	百万円	200	EDP
長野	百万円	100	生産能力増強投資
川越	百万円	100	更新投資他
大阪	百万円	100	シール間歇ミニ、デジタルプリンター
中国	百万円	300	規制・環境対応他
マレーシア	百万円	100	老朽化対応他
タイ	百万円	100	市場ニーズ対応

- 2021年3月期の目標達成のために最適な設備投資を行う

2 - 3 投資



時期未確定設備投資

拠点		金額見込	主要項目
連結合計	百万円	1,000～2,000	国内事業関連新技術の開発資金 アセアンセグメントにおける工場新設等 拡張設備投資

- 2021年3月期以降の成長のための投資枠
- グループ利益の伸長のために成長分野に対して積極的に投資を行う
- 新技術開発については協業会社の選定も含め進めていくため投資時期は未定
- アセアンセグメントにおいては中期事業計画期間にて投資エリアを見極める
- アセアンセグメントでの投資先の現状見込みとしてはタイ、ベトナムである